

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

3月報

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ 3月の報告数は768件（前月比0.2、前年同月比0.3）で、2月に続いて大幅な減少です。例年と異なりB型の大きな流行を認めないまま終息しています。山鹿、天草地区から多く報告されています。

小児科定点

（全体傾向）

報告数3,718件（前月比0.62、前年同月比0.71）で、全体報告数の減少は続いています。インフルエンザの減少により感染性胃腸炎1,500件（前月比1.1）が大きく占めることになりました。水痘、手足口病、伝染性紅斑、ヘルパンギーナは増加しています。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症 : 報告数138件（前月比0.8、前年同月比1.1）で、減少に転じました。0～1歳が8割強を占めています。菊池、八代地区からの報告が多いようです。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数69件（前月比0.8、前年同月比0.9）でした。前月同様減少傾向にあります。年齢別では1～2歳で全体の5割強（39/69）を占めました。山鹿、菊池地区から比較的多く報告されました。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数491件（前月比0.9、前年同月比1.3）でした。昨年11月から前年同月の約2倍の報告が続いていましたが、3月は減少に転じ例年並みの報告になっています。3～6歳をピークに幅広い年齢層から報告があります。宇城、菊池、有明地区からの報告が多いようです。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数1,500件（前月比1.1、前年同月比0.8）で、前月より若干増加しました。年齢別では1～6歳に、地区別では八代、菊池、山鹿、有明地区からの報告が多いようです。
5. 水痘 : 報告数81件（前月比1.4、前年同月比2.0）で、3月は増加しました。昨年末からは前年より高い水準で推移しています。有明、八代地区からの報告が多いようです。
6. 手足口病 : 報告数164件（前月比2.2、前年同月比2.2）で、前月同様増加傾向にあります。年齢別では1歳をピークに、2歳未満の報告が全体の8割強（142/164）を占めました。熊本、水俣、菊池地区からの報告が多いようです。
7. 伝染性紅斑 : 報告数64件（前月比1.5、前年同月比9.1）でした。昨年11月からの増加傾向は続いていて、4年前の流行期のレベルに達しています。2月同様有明地区に多いのですが、阿蘇・御船・水俣を除く県下広域からの報告も続いています。今後の推移に注意が必要です。
8. 突発性発疹 : 報告数131件（前月比1.1、前年同月比1.0）でした。前月比、前年比とも大きな変化はなく、例年と同様の推移です。
9. ヘルパンギーナ : 報告数49件（前月比2.0、前年同月比2.0）で、2月に続いてやや増加しました。前月同様、天草地区からの報告が多いようです。
10. 流行性耳下腺炎 : 報告数23件（前月比1.0、前年同月比1.3）で、一昨年末から報告数の少ない状況が続いています。山鹿地区からの報告が多いようです。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎： 報告数92件(前月比1.1、前年同月比2.0)と少し増加しています。熊本92件、有明16件の報告です。年齢別では20～39歳にピークがありますが、全年齢層に発症しています。乳幼児層では感染拡大に注意が必要です。
2. 流行性角結膜炎： 20～29歳に1件、熊本からの報告です。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症：
報告数51件(前月比1.0、前年同月比0.9)で、前月比は2件減少し、前年同月比も3件減少しています。男女別は、男性に32件と多く見られています。年齢別は、男性は20～44歳に27件と多く、女性では15～29歳に15件と多く見られています。地区別は、熊本が38件と多く、次いで有明5件、宇城3件、菊池2件、御船、八代、人吉に各1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症：
報告数19件(前月比0.8、前年同月比1.1)で、前月比は減少し、前年同月比は僅かに増加しています。男女別は、女性に10件とやや多く見られています。年齢別は、女性は20～70歳以上と幅広く見られ、男性は20～34歳と若年層に見られています。地区別は、熊本が9件と多く、次いで八代7件、菊池3件でした。
3. 尖圭コンジローマ：
報告数は12件(前月比3.0、前年同月比1.1)で、前月比は著明に増加し、前年同月比も僅かに増加しています。男女別は、男性に10件と多く見られています。年齢別は、男性は20～64歳と幅広く見られ、女性は25～29歳、55～59歳に各1件見られています。地区別は、熊本に9件と圧倒的に多く、次いで菊池、八代、宇城に各1件でした。
4. 淋菌感染症：
報告数は11件(前月比0.8、前年同月比0.5)で、前月比、前年同月比とも減少しています。男女別は、すべて男性でした。年齢別は、男性の15～69歳と幅広く見られています。地区別は、熊本8件と圧倒的に多く、次いで宇城2件、八代1件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：
報告数15件(前月比1.1、前年同月比0.9)でした。14件(93%)が70歳以上でした。乳幼児では0件です。阿蘇、人吉、有明(2件、定点あたり2.0)が多くなっています。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：
報告数2件(前月比0.5、前年同月比0.7)でした。70歳以上が2件で、小児は0件です。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：
報告数0件(前月比+0、前年同月比+0)でした。H30の5月以降報告ありません。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎： 報告数0件(前月比+0、前年同月比+0)でした。
2. 無菌性髄膜炎： 報告数1件(前月比1.0、前年同月比0.3)でした。小児は0件です。

3. マイコプラズマ肺炎： 報告数4件（前月比 +0、前年同月比 2.0）でした。熊本2件、山鹿、八代各1件です。乳幼児は0件です。
4. クラミジア肺炎： 報告数0件（前月比 +0、前年同月比 +0）でした。
5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：
報告数32件（前月比 2.9、前年同月比 2.7）でした。かなり増加しました。今後注意が必要です。0歳7件、1-4歳21件と多くなっています。熊本（31件、定点あたり6.2）が多くなっております。

届け出対象感染症

1類感染症	： ありませんでした。	
2類感染症	： 結核	23件
3類感染症	： 腸管出血性大腸菌感染症	2件
4類感染症	： レジオネラ症	3件
5類感染症	： アメーバ赤痢	1件
	ウイルス性肝炎	1件
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1件
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1件
	後天性免疫不全症候群	1件
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
	侵襲性肺炎球菌感染症	7件
	破傷風	1件
	梅毒	11件
	百日咳	23件
	風しん	1件